



ミニデイサービス便り

楽しい時間が流れる

「ドーピングのお陰で今日は6回も上がった」と腕をふって上機嫌のTさん。お昼休みに楽しみにされているマージャンの結果でした。

リハビリのために遠くから歩いて来られている努力家。午前中に描かれた花の絵にも力強さがあふれています。「三岸節子に挑戦しとる」とおっしゃった。

以前、自立支援教室で三岸節子美術館にご一緒したことがありますが、その時には「わしにはこの絵はわからん」とおっしゃっていたのですが、なんと心に響いておられたのでしょうか。

「すごいなー」と感心したり、驚いたり。その様子を、マージャン仲間のKさんがニコニコ笑いながら聞いておられる。Kさんも絵がお得意。画家のように、バックの色塗りから始められる方です。もう一人のマージャン仲間、車椅子のKさんは感激するとすぐ泣く優しい泣き虫。

向こうのほうで35歳の障害の女性が鳴らしているキーボードから流れる音楽で、踊りたいと希望が出され、マージャンから離れられた。

急遽マージャンの穴埋めに入ったのが、84歳の男性ボランティアNさん。もう一人のマージャン仲間も又ボランティアの15歳のI君。

スタッフと車椅子のKさんが踊る姿を見て「うまいなー」と優しい声かけを下さるのは43歳の障害のある男性Oさん。

それを聞いていた88歳の女性のIさん「あんたは優しいねー」と声がかかる。

対面式の台所で昼食の後片付けをしているスタッフもこの光景を見ながらちゃちゃを入れる。

何だか皆が呼応しあっているようで、とても温かい空気と楽しい声がさくそうしていた。

様々な人達が行き交う広場には、取り繕うものは何もない。自然体で時間が流れていました。

9月のミニデイサービスは
保育園 9/2、16 事務所 9/7、9、14、21、23、28、30



■一宮市委託講座／実施団体 当会まごころ

痴呆予防介護講座開催

◇平成16年9月11日(土)／13日(月)◇参加費／無料

日時	内容	講師	会場
9/11 10時～11時45分	デイサービス現場から～痴呆症が小さなデイサービスで落ち着いた～	大宮デイサービスセンター 施設長 藤本久子さん	アイプラザ一宮
13時～16時	映画と講演会 映画「母のいる場所」 講演／家族の自立と介護を考える 監督 榎坪多鶴子さん		アイプラザ一宮 大ホール
9/13 9時～15時30分	施設見学 多機能施設とグループホーム 今井あんきの家／グループホーム森津		犬山市 弥富

◆申込／一宮市高齢福祉課又はNPO法人まごころ ◆対象／一宮市在住、在職の18歳以上の方

9月の予定

- 1日(水) 会報「まごころ」発行 児童デイ
- 2日(木) ミニデイサービス(閉園) サービス提供責任者会議
- 3日(金) 児童デイ・まごころ理事会
- 4日(土) 児童デイ
- 5日(日) 定例会・勉強会／移送について
- 6日(月) 児童デイ
- 7日(火) ミニデイサービス
- 8日(水) 児童デイ
- 9日(木) ミニデイサービス・定例会 「市民協愛知」幹事会 サービス提供責任者会議
- 10日(金) 児童デイ
- 11日(土) 市委託講座(痴呆予防) 映画と講演会「母のいる場所」 児童デイ
- 13日(月) 市委託講座(施設見学) 児童デイ
- 14日(火) ミニデイサービス
- 15日(水) 児童デイ
- 16日(木) ミニデイサービス(閉園) サービス提供責任者会議 児童デイ・ケース検討会
- 17日(金) 児童デイ
- 18日～20日 「移動ネット数知」総インストラクター講習会(東京)
- 18日(土) 児童デイ
- 20日(月) 児童デイ
- 21日(火) ミニデイサービス
- 22日(水) 児童デイ
- 23日(木) ミニデイサービス サービス提供責任者会議
- 24日(金) 児童デイ
- 25日(土) 児童デイ・定例会
- 27日(月) 児童デイ
- 28日(火) ミニデイサービス
- 29日(水) 児童デイ
- 30日(木) ミニデイサービス サービス提供責任者会議

まごころ主催

ガイドヘルパー養成研修開催 重度視覚障害者及び重度脳性 まひ等全身性障害者研修課程

〈日時〉
10月10日(日) 9:45～16:30
10月11日(月) 9:30～17:00
10月12日(火) 9:30～16:30
10月14日(木) 10:00～15:00
10月18～29日(内1日) (施設実習)

〈会場〉
まごころふれあい広場
施設実習「はなの木寮」

〈受講料〉
27,000円

ふれあい広場

- *うさぎのパンやさん(機織り物おまじ) 毎週月曜
- *親子でパン作り 12日 9時～
- *ふれあいのつどい 19日 10時～12時
- *太極拳 毎週火曜 16時～17時
- *ピアノ教室 第2・4月曜 9時30分～

10月定例会

場所「まごころふれあい広場」
定例会：10月3日(日) 9:30～10:30
勉強会：ケア検討会 10:30～12:30

ある外科医の独り言

検診

高 勝義

多くの病院は診療報酬以外の収益を得る手段として、検診事業を行っている。当院もその例外ではない。病院内にそろえた検査機器と職員を検診事業にあて、それなりの収益をあげている。

当然な事ではあるが、病気で苦しんでいる人は、病院を訪れるのであり、検診を訪れる人達は、今は元気に仕事や日常生活をしている人々である。

当院では出来るだけ早く問診や検査を行い、一日の業務に差し支えがないようにと、朝7時半から患者さんの検診を行っている。大きな企業の社員や小さな会社の従業員、一般の家庭の人や学校の先生など、検診を訪れる人は様々である。

ある時は診察待ちのフロアーが大きな声でざわめいていたり、ある時には静かに整然としていたり、検診を訪れる人の集団によって、我が検診センターの雰囲気が変わるのである。

騒がしい時には、一体この集団はどこの会社の人かなと、ついつい診察には関係がないカルテの職業欄に目がいってしまう。逆にこの会社の人達は大変紳士的で静かだな、さぞ良い会社なのかなと思ってしまうこともある。そんな事を思うのは自分だけかなと思いつつも検診センターで働いている職員に聞くと、私が感じたと同じ事を言うのである。

職種でもなく年齢でもなく男女差でもない。どうも会社の体質が職員の検診の態度に現れるようなのである。会社の規模に関係なく、その企業が職員を如何に教育しているのか、検診という単純な行為の中に現れるのである。もし、我が病院の職員達が、どこかで同じ様な検診を受けるとしよう。整然と静かに紳士的に検診を受けてくれるだろうか。騒がしく、横柄な態度などとならないだろうか心配してしまうのである。

当院が多くの人々から尊敬され、信頼され、愛される病院になるには、全ての職員がどこに行っても、礼儀正しく、理性のある良く教育された人達だと言われるように、技術のみではなく、人としての教育をしなければと、検診を行いながら思うのである。

(山下病院 院長)

7月有償活動

在宅活動件数	23件
在宅活動人数	33人
ミニデイサービス利用者	45人
移送サービス利用者	227件
ふれあい広場利用回数	1回
助付活動時間	531時間

7月会員登録

協力会員	54人
利用会員	70人
賛助会員	113人
合計	237人

7月支援費活動

訪問件数	28件
身体介護	170.5時間
家事援助	105時間
移動介護	55.5時間
日常生活支援	10.5時間
合計	341.5時間

7月介護保険活動

利用件数	55件
生活支援	668.5時間
身体介護	651時間
合計	1319.5時間